

- 当社は、2026年度第5回（通算23回）のALPS処理水海洋放出を、8月31日午前11時29分から実施しています。
- 放出期間中は、ALPS処理水（トリチウム）の希釈が適切に行われているか毎日確認することを目的に、海水で希釈後の水のトリチウム濃度を分析し、トリチウム濃度が計算上の濃度と同程度であることおよび1,500ベクレル/ℓ未満であることを確認しています。
- 発電所から3km以内の10地点および発電所正面の10km四方内の4地点においては、海水のトリチウム濃度の分析結果を迅速に得ることを目的に、検出限界値を10ベクレル/ℓ程度に上げた分析を実施し、トリチウム濃度が放出停止判断レベル（700ベクレル/ℓ※¹または30ベクレル/ℓ※²）および調査レベル（350ベクレル/ℓ※¹または20ベクレル/ℓ※²）以下であることを確認しています。

※1 発電所から3km以内の10地点 ※2 発電所正面の10km四方内の4地点

<2026年9月17日までにお知らせ済み>

- 2026年度第5回（通算23回）のALPS処理水海洋放出は、約460m³/日の放出量で安定的に推移し、海水中のトリチウム濃度についても、当社が実施する迅速な分析の結果等から、計画的に安全に行われていることを確認しています。
- 測定・確認用設備B群からのALPS処理水の移送が、9月17日午後4時6分に終了し、ALPS処理水移送ラインの配管内に残っている水（ALPS処理水）の、ろ過水による押し流しが、9月18日午後0時9分に終了したことをもって、2026年度第5回（通算23回）のALPS処理水海洋放出が完了しました（総放出水量：7,863m³、トリチウム総量：約1.3兆ベクレル）。
- 引き続き、ALPS処理水の安全な海洋放出を安定的に実施できるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

【参考】2026年度ALPS処理水放出計画（1/2）



- 2026年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数8回、年間放出水量約62,400m³、年間放出トリチウム量約11兆ベクレルを計画。なお、年間放出トリチウム量は移送元タンク群での分析値と測定・確認用タンク群での分析値の違いによる影響等のため、計画値と実績値に若干の違いが生じる場合がある。

管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3	放出開始時期 (放出量)
26-1-19	H2エリアJ群 (測定・確認用設備 A群に移送) : 約7,390m ³ H1東エリアC群 (測定・確認用設備 A群に移送) : 約390m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.51～0.86 ※4 トリチウム濃度 : 15万～25万ベクレル/ℓ ※5 トリチウム総量 : 1.9兆ベクレル	4月 (7,800m ³)
26-2-20	H1東エリアC群 (測定・確認用設備 B群に移送) : 約7,800m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.51～0.86 ※4 トリチウム濃度 : 15万ベクレル/ℓ ※5 トリチウム総量 : 1.2兆ベクレル	5～6月 (7,800m ³)
26-3-21	H1東エリアC群 (測定・確認用設備 A群に移送) : 約3,700m ³ H1東エリアA/B群 (測定・確認用設備 A群に移送) : 約4,100m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.51～0.86 ※4 トリチウム濃度 : 15万～16万ベクレル/ℓ ※5 トリチウム総量 : 1.2兆ベクレル	6～7月 (7,800m ³)
26-4-22	H1東エリアA/B群 (測定・確認用設備 C群に移送) : 約7,800m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.60～0.84 ※4 トリチウム濃度 : 16万ベクレル/ℓ ※5 トリチウム総量 : 1.3兆ベクレル	7～8月 (7,800m ³)

次スライドへ

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「26-1-19」は26年度第1回放出かつ通算第19回放出を表す。

※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。 ※3 下線部は実績値を示す。

※4 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）または分析値およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。H1東-A,B,C、H2-Bについては主要7核種の分析値から算出した告示濃度比に、C-14の最大値（0.11）または分析値、およびその他核種の分析値（タンク群毎に個々のタンクから採水し、それらを混合した試料を分析した値）を加えた値。

※5 タンク群平均、2026年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値

[参考] 2026年度ALPS処理水放出計画（2/2）



管理番号※1	移送元タンク※2	前スライドより 移送量	放出開始時期 (放出量)
26-5-23	H1東エリアA/B群 (測定・確認用設備 B群に移送) H2エリアB群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約4,800m ³ : 約3,000m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.32～0.84 ※3 トリチウム濃度 : 16万～17万ベクレル/ℓ ※4 トリチウム総量 : 1.3兆ベクレル 8～9月 (7,800m ³)
26-6-24	H2エリアB群 (測定・確認用設備 A群に移送) K1エリアC/D群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約6,200m ³ : 約1,600m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.32～0.84 ※3 トリチウム濃度 : 15万～19万ベクレル/ℓ ※4 トリチウム総量 : 1.3兆ベクレル 9～10月 (7,800m ³)
26-7-25	K1エリアC/D群 (測定・確認用設備 C群に移送)	: 約7,800m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.35～0.40 ※3 トリチウム濃度 : 19万ベクレル/ℓ ※4 トリチウム総量 : 1.5兆ベクレル 10～11月 (7,800m ³)
点検停止 (測定・確認用設備 A群タンクの本格点検含む)			
26-8-26	K1エリアC/D群 (測定・確認用設備 B群に移送) G4南エリアC群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約1,900m ³ : 約5,900m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.35～0.50 ※3 トリチウム濃度 : 19万ベクレル/ℓ ※4 トリチウム総量 : 1.5兆ベクレル 2～3月 (7,800m ³)

➡ 2026年度放出トリチウム総量 : 約 **11兆** ベクレル

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「26-1-19」は26年度第1回放出かつ通算第19回放出を表す。

※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）または分析値およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。H1東-A,B,C、H2-Bについては主要7核種の分析値から算出した告示濃度比に、C-14の最大値（0.11）または分析値、およびその他核種の分析値（タンク群毎に個々のタンクから採水し、それらを混合した試料を分析した値）を加えた値。

※4 タンク群平均、2026年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値

【参考】迅速に結果を得る測定のモニタリング計画

- 当社は、2023年8月の放出開始以降、下図に示す枠内の14地点で、迅速に海水中のトリチウム濃度を確認するためのモニタリング（検出限界値10ベクレル/ℓ程度）を実施しております。なお、「放出停止判断レベル（図中記載）」を超えた場合には、海洋への放出を停止します。

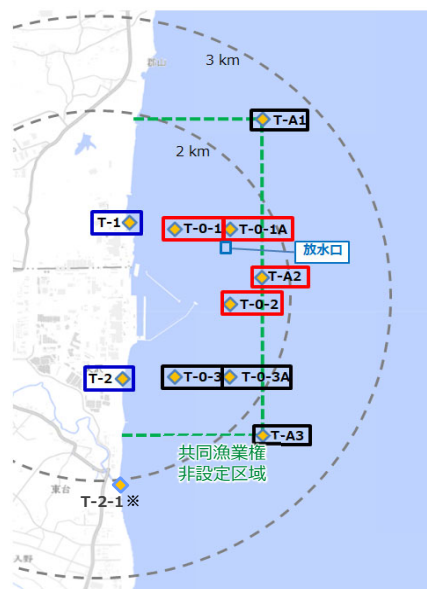


図1 試料採取地点 発電所から3km以内（放水口付近）

□ □ □: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）

指標（放出停止判断レベル）700ベクレル/ℓ

※ T-2で安全が確保出来ない場合の代替地点

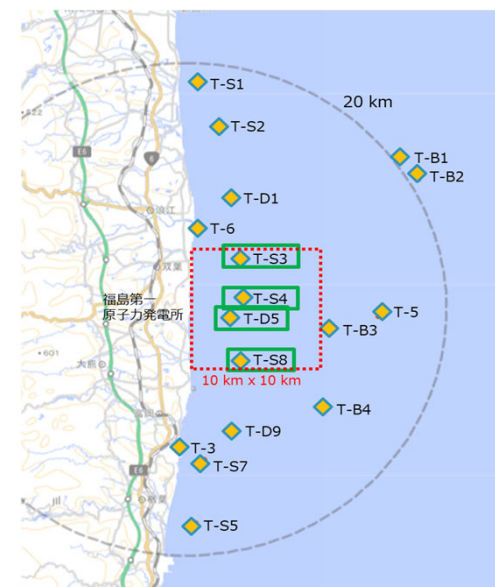


図2 試料採取地点 発電所正面の10km四方内

□: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）

指標（放出停止判断レベル）30ベクレル/ℓ

	【図1】発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】発電所正面の10km四方内
	放水口周辺4地点 □	その他6地点 □ □	4地点 □
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※1	週2回※2	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8 : 月1回
放出停止期間中 (放出終了日から1週間を除く)	週1回※2	月1回※2	

※1 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2の迅速に結果を得る測定を行う。

※2 2023年8月の放出開始以降、毎日モニタリングを実施してきましたが、放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した。

(2023年12月25日公表)